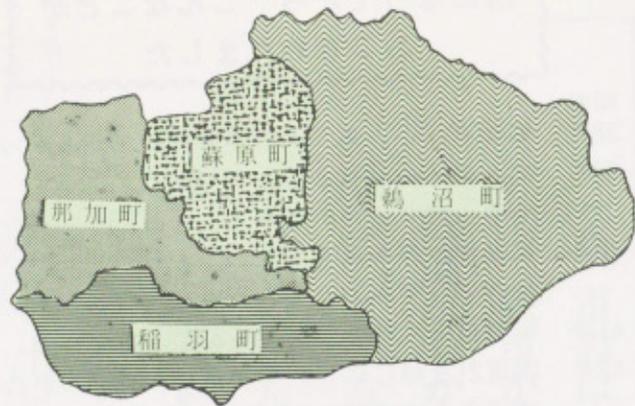


各務原市は、
いつ、どのよ
うにして、で
きたのでしょ
うか。

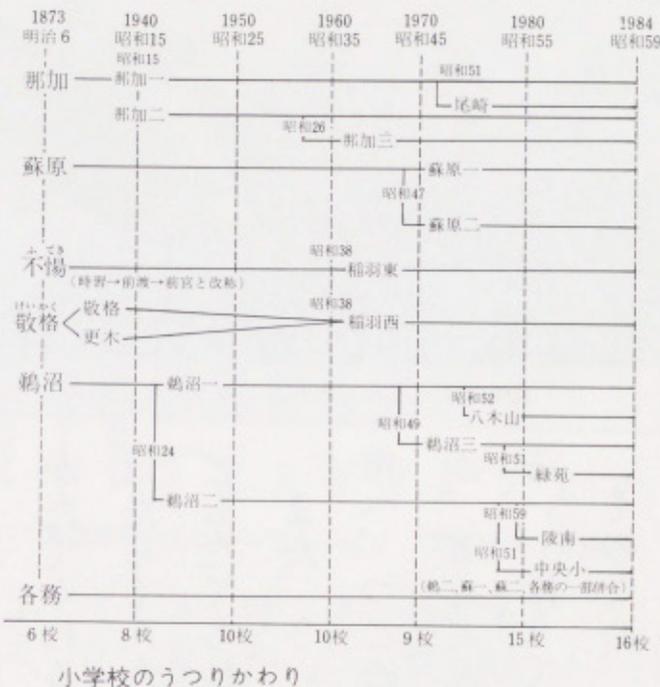


四町のがっぺい地図

してしごとをしたほうが、町の人たちのくらしが、よくなるということがわかり、がっぺいして市になったのです。

(2) 町から市へ
わたしたちの市は、昭和三十八年に、それまでの稲羽町、鵜沼町、蘇原町、那加町の四つの町が、がっぺいして、新しく各務原市になりました。
はじめは、それぞれの町が、おたがいにつごうのよいことを考えていたため、がっぺいは、むずかしかつたそうです。しかし、何回も話し合うあいだに、四つの町が、協力

市の人口がふ
えてきたわけ
を、いろいろ
考えてみま
しょう。



(今の蘇原第一)・不揚(今の稲羽東)・敬格(今の稲羽西)・鵜沼(今の鵜沼第一)・各務小学校の五校だったのに、しだいにふえ、今では十六校となりました。尾崎・鵜沼第三・緑苑・中央・八木山小学校は、じゅうたくと同じように、山をけずつて建てられた小学校です。

市になってから こんなことが
おこなわれました

- 昭和
38年 那加第二小、第三小の体育館ができあがった。
39年 那加第一小の校舎がたてられた。
各務小のプールができた。
40年 蘇原南、那加保育所がつくられた。
稲羽中のプールができた。
41年 稲羽西小の校舎、プールができあがった。
42年 国道21号線にはじめて歩道橋がつくられた。
鶴沼中の体育館とプールができた。
蘇原中の校しゃができあがった。
43年 各務保育所、更木保育所ができた。
44年 市のごみやき場ができた。
那加中の校舎の一部がたてられた。
45年 那加第一小、蘇原中の体育館ができた。
那加第二小、各務小の校しゃの一部ができた。
46年 稲羽東小の校舎ができあがった。
鶴沼第二小の校しゃの一部ができた。
市民プールができた。
47年 県立各務原高校ができた。
那加中央保育所ができた。
市学校給食センターができた。
蘇原第二小ができた。
49年 鶴沼第三小ができた。
51年 尾崎、蘇原西保育所ができた。
緑苑小、尾崎小ができた。
52年 中央公民館、市民会館ができた。
八木山小ができた。
53年 中央小、緑陽中ができた。
54年 県立各務原東高校、中央中ができた。
55年 少年自然の家ができた。
58年 県立各務原西高校ができた。
総合体育館ができた。

市になってからは、表のように、いろいろなしごとが、つき
つきにすすめられました。

2 市のはってん

(1) 鉄道ができて

鉄道がしかれる前 今から七十年ほど前の国鉄那加駅こくてつのあたりは、ほ
りは、どんなようすだったのでしょうか。

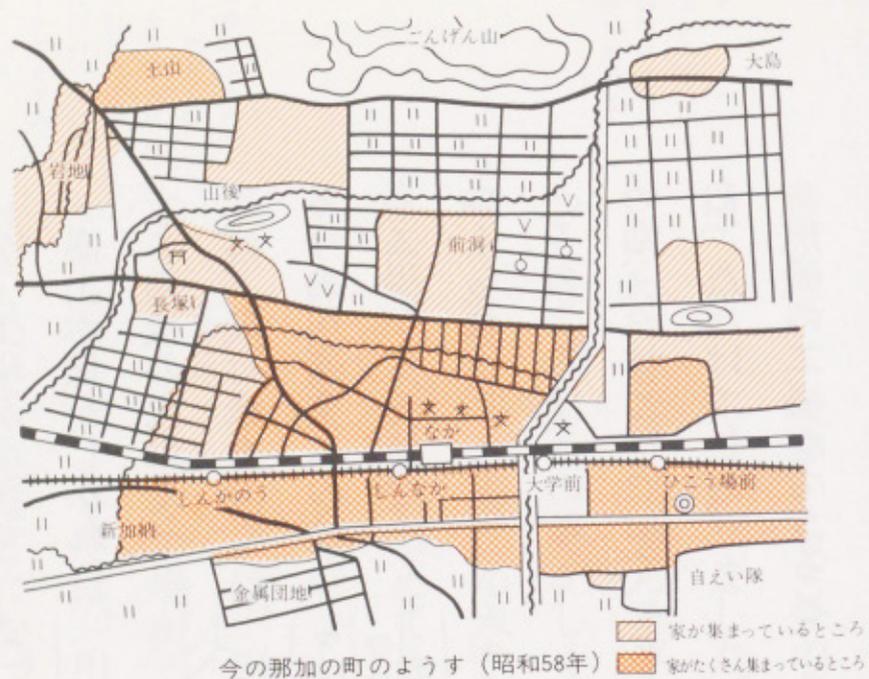
おじいさんの話によると、七十年ほど前のこのあたりは、ほ
とんどが松林や草原であり、かいこんした畑が少しあつたくら
いで、家は一けんもなかつたということでした。

次のページつぎの地図が、そのころのようすをよくあらわしてい
ます。今の那加の町の地図とくらべて、ちがいを見つけてみま
しょう。

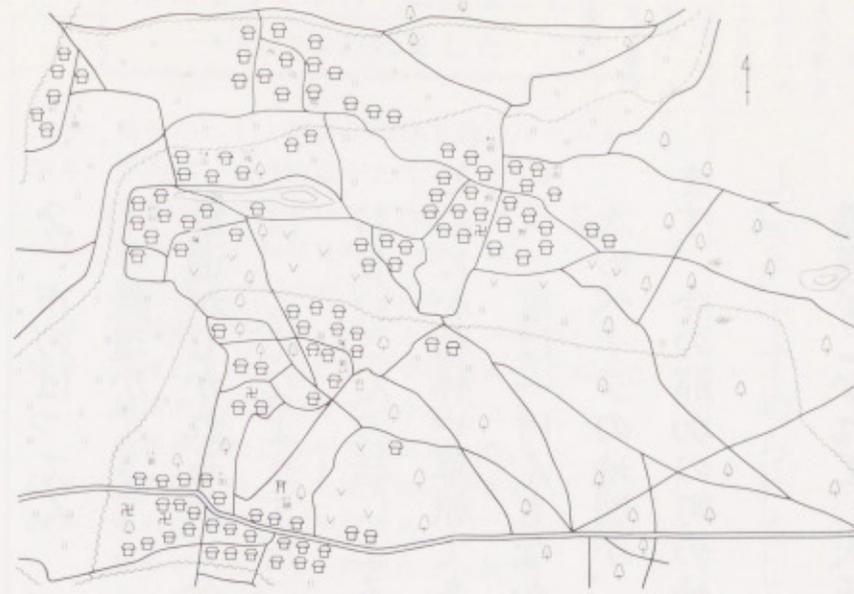
鉄道がしかれて

大正五年（今から六十九年前）に飛行場ひこうじょうが

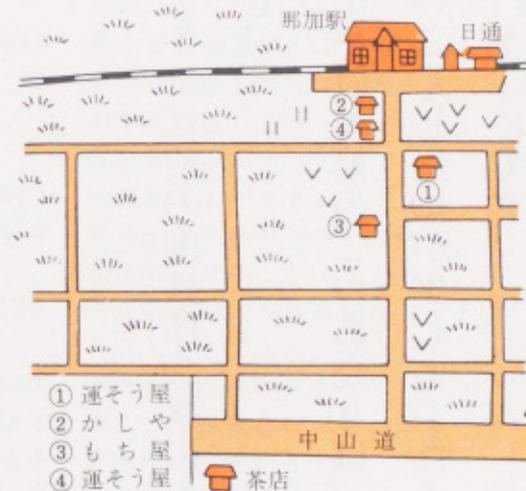
高山本線がし
かれて、市の
ようすや、人
びどのくらし
やしごとが、
どのようにか
わったか考え
てみましょう。



また、大正十二年に、高等農林学校（今の岐阜大学）ができる、駅を中心にして、だんだん家がたてられ、町らしくなってきました。大正十四年には、一・六市といつて、毎月、一と六のつく日に市を開くようになると、まわりの人たちが、買い物に集まるようになります、そのころには、家の数も百五十けんほどになりました。こうして、駅前がはってんしました。



高山線がしかれる前の那加の町

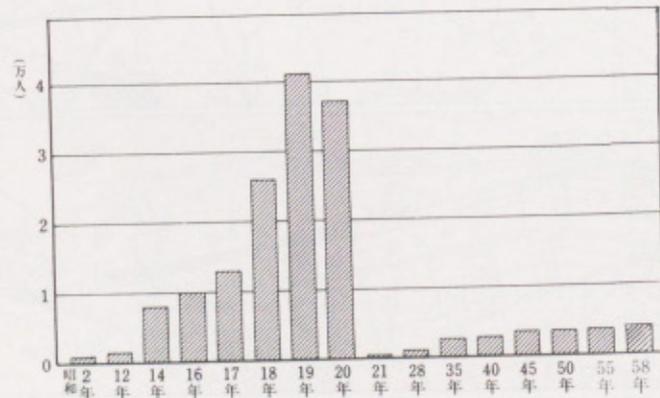


駅ができて3年ほどたったころの那加駅ふきん (おじいさんに聞いて作った地図)

でき、大正九年に、高山本線が各務原までしかれ、各務原と那加の駅がつくられると、駅前に家がたてられるようになりました。

工場がふえたり、大きくなったりすると市はどのようにかわっていかか考えてみましょう。

昭和三十年ころには、川崎の工場の下うけをする協力工場が、いくつもできてきました。今では、川崎の近くだけでも、二十社ほどになっています。



川崎重工岐阜工場ではたらく人の数のうつりかわり
(川崎重工業株式会社、庶務課調べ)

工場と鉄道との結びつきを
考えてみましょう。

(2) 工場ができて高山本線がしかれて二年後の大正十一年に、飛行機をつくる今の川崎重工の岐阜工場が、三柿野につくられました。

そのころは、いちめん、松林と竹やぶで、家も、六軒のあたりに、二、三十けんあっただけでした。

川崎の工場ができると、その四年後の大正十五年に、名鉄各



川崎の工場ができたころのようす



山をけずって建てられた尾崎の団地

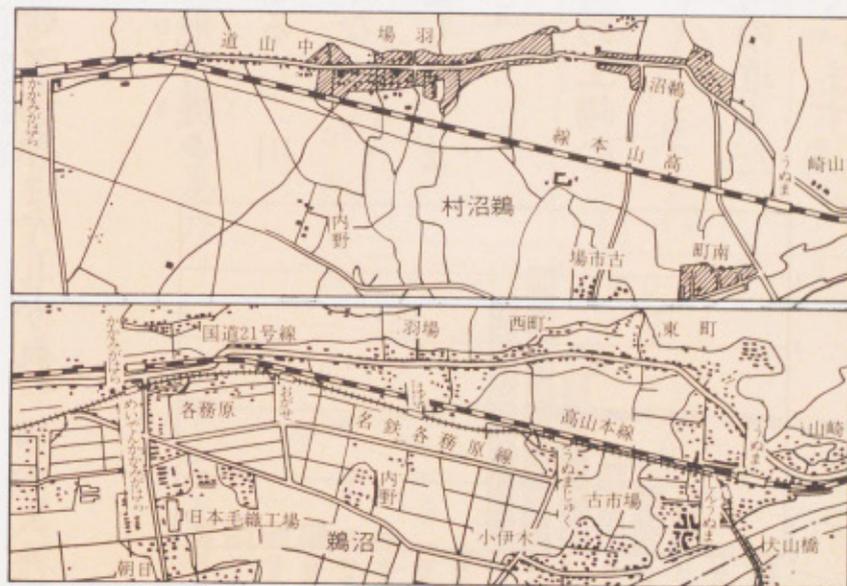
場ではたらく人たちのアパートや、じゅうたくにかわっていききました。

昭和三十七年ごろには、岐阜市や名古屋へ、短い時間でつとめに行ったり、買い物に行くことができるという理由で、たくさんさんのじゅうたくが、たてられるようになりました。これらのじゅうたくには、鶉沼や尾崎団地のように、山をけずって建てられたものと、鶉沼第二小学校の近くや、雄飛丘、蘇原の団地のように、あれ地などを整地して建てられたものがあります。

団地ができて市は、どのようにかわったでしょう。また、これから市は、どのようにかわっていくか、考えてみましょう。

(3) 団地ができて

高山本線がしかれ、工場ができたころ、家のほとんどは、中山道などの道にそってたてられていました。しかし、となりの家とのあいだは、はなれていました。ところが、工場ではたらく人の数がどんどんふえてくると、今まで、松林や竹やぶであったところが、工



(上) 高山本線がしかれたころの地図 (大正9年)
(下) 現在の地図 (昭和54年) 家が集まっているところ

むかしのまつりのようすを、家の人や、おとしよりにきいてしらべてみましょう。また、むかしからある行事に、どんなものがあるか、しらべてみましょう。

と、その年のほう作をいわつて、村のわか者が、しばいをしました。その日だけは、村の人たちが、しごとをわすれて、しばいを楽しんだのです。

今でも、祭りの日には、こどもたちのおどりやしばいが行なわれ、地元じもとの人や、しばいを見にきた人たちでたいへんにぎわいます。



各務の村国座のぶたい
左が花道、ぶたい中央がまわりぶたいになっています。



3 むかしからつたわるもの
(1) むかしからある行事
各務の「村国座」は、村国神社境内むらくにじんじやけいだいにあり、今から九十九年前につくられました。「村国座」は、日本にある農村ぶたいのうち、むかし（江戸時代の終わりごろ）の形を、もつともよくのこしているものの一つで、まわりぶたいと、花道はなみちのある大きなしばい小屋ごやです。

このしばい小屋で、まい年秋になる

町をまわって
むかしからあ
るものや、む
かしのようす
をつたえるも
のを見つけ、
しらべてみま
しょう。

(2) むかしのようすをつたえるもの

鶺沼三ツ池の「炉畑遺跡」

は、約四千七百年前に人の住んだたてあなしきじゆうきよで有名です。昭和四十一年の土地改良のとき、たくさんの土器ができました。つぎの年には、炉跡らしいものが見つかったのがきっかけで、昭和四十三年から、四十六年まで、ほり出しがおこなわれました。



鶺沼三ツ池の炉畑遺跡



炉畑遺跡から出てきたもの

このほり出しでは、さらなどのたくさんの土器のほか、石のつりばり、ほうちようなどが出てきました。さらに、大むかしの人たちが、すんでいた家のあとも、たくさん見つかりました。

このため、大むかしの人たちが、どんな場所に、どんな家をつくり、どんな食べ物を食べ、どんな道具を使って生活していたのか、ということがわかりました。わたしたちは、大むかしの人たちが、のこしてくれたものを、いつまでもたいせつにしていかなければなりません。

四年

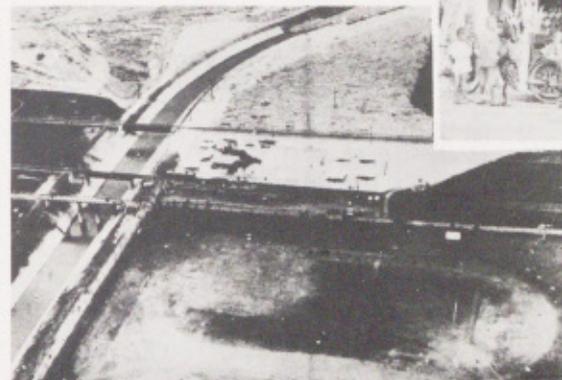
市のようすをつたえる写真



那加第一小学校
木ぞう校舎のころ (大正のおわりから
昭和10年ごろまで)



商店の大売り出し記念
(昭和のはじめ)



名鉄岐阜大学駅ふきんのようす
(昭和8年ごろ)



空しゅうから家をまもる
消火くんれん (昭和17.8年ごろ)



伊勢湾台風で倒れた
雄飛丘八丁内住宅 (昭和34年9月)



水道コントロール室

りします。ですから、ごみのしまつは、わたしたちのけんこうと深いつながりがあります。水は、すいじ、せんたく、そうじなど、わたしたちのくらしのいろいろなところで、たくさん使われていて、なくてはならないものです。市には、市でつくった水道があり、この家でも、いつでも、きれいな水が使えるようになっていて、わたしたちのくらしはべんりになってきました。

市では、ごみのしまつと水道の仕事をどのように進めているか調べましょう。そして、そこには、どんな問題があり、それらをどうしたらよいかを考えてみましょう。



ごみ集めのバックマスター車

一 けんこうでくらしよい生活

各務原市は、年々人口がふえて、県では三番目の大きな市になりました。

市では、市の人々がけんこうで、くらしよい生活ができるために、いろいろな仕事をしていきますが、ここでは、「ごみのしまつ」と「水道のようす」を学習します。

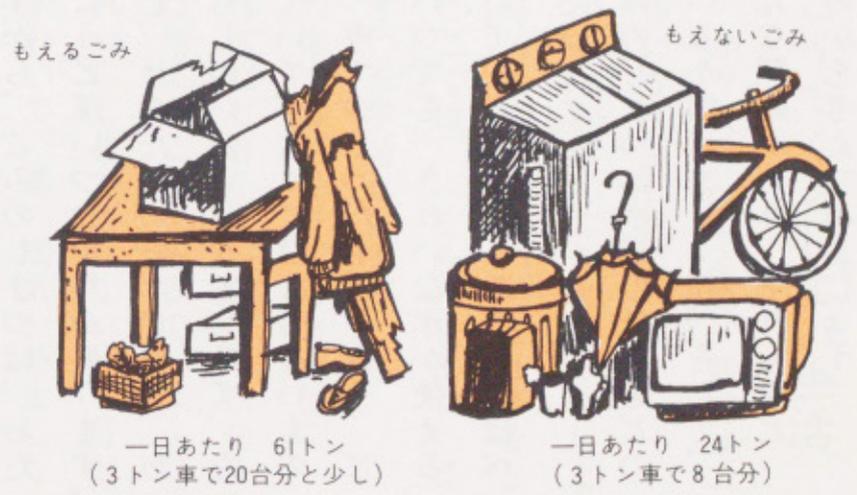
わたしたちの家では、毎日ごみを出していますが、市全体ではどれくらいのごみになるか、みなさんは考えたことがあるでしょうか。このごみがきれいにしまつきれないと、町がよごれ、はえがわいて、悪い病気が発生した

わたしたちの家では、どんなゴミが、どれくらい出るか調べてみましょう。

1 ゴミのしまつ

市市全体のごみ わたしたちの家では、毎日、たくさんのごみを出していますが、市全体ではどれくらいになるでしょうか。

ゴミには、紙くずのようにもえるものと、野菜くずのようにもえにくいものと、あきかんやガラスのように全くもえないものがあります。また、使えなくなった自転車やテレビなどのような粗大^そごみもあります。



一日あたり 61トン
(3トン車で20台分と少し)

一日あたり 24トン
(3トン車で8台分)



立てふだがあってもすててあったごみ

わたしたちの町では、いつでもどこに出すようになったらいいでしょう。

えないごみは月一回、出すようになっていきます。

ごみ集積場所は、住んでいる人

これらのごみは、市全体で一日八十五トンほどになり、市がゴミのしまつにかけるひ用は、年に四億二千万円にもなります。(昭和五十七年度)

ごみ集め わたしたちがもえるごみともえないごみとに分けてごみ集積場所に出すと、ごみ集めの自動車が来て、ごみを運んで行きます。

蘇原の野口町では、もえるごみは水曜日と土

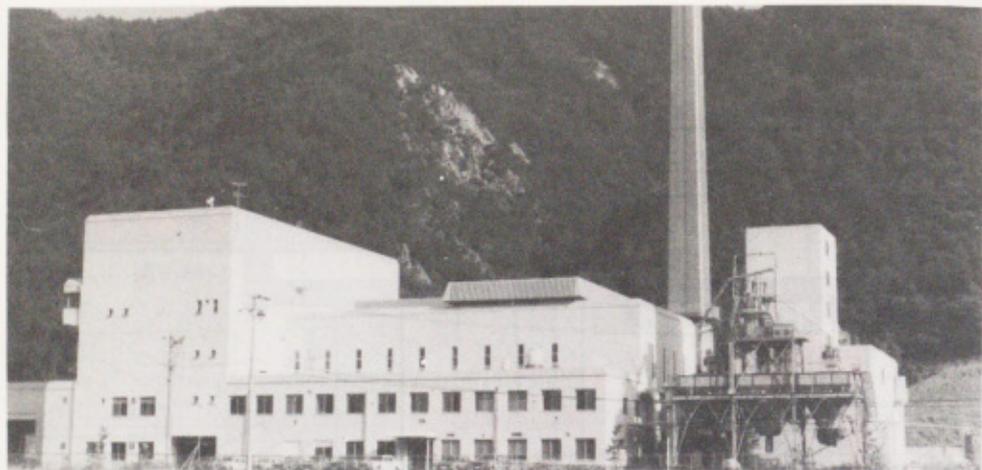
曜日の週二回、も

可燃物集積場所
(もえるゴミ)

収集日毎週 曜日
お願い

- 不燃物(もえないゴミ)の運入はやめてください。
- 持ち出しは当日の午前6時から午前8時までの間にしてください。
- 収集作業がしやすいように持ち出してください。

まちを美しくしましょ
各務原市民憲章推進協議会
ごみ集積場所のけいじ板



北せいそうセンター（須衛）

で九十トンのごみをもやす炉が二つと、五時
間で五十トンの粗大ごみやもえないごみをく
だく機械と、七時間で三十三トンの灰をかた
める機械があります。炉は月曜日から土曜日
まで、夜中も休まずもやしつづけています。
センターのしくみ ここには、たくさんの
ごみを早くもやせるように、いろいろなくふ
うがしてあります。全て機械を使って、ごみ
を高い温度でもやしているの、いやなにお
いが出ません。すすは集じん機でとりのぞい
ています。また、もえ残った灰は、人々の害

ごみ集積場所
はどんな所に
多いでしょう。

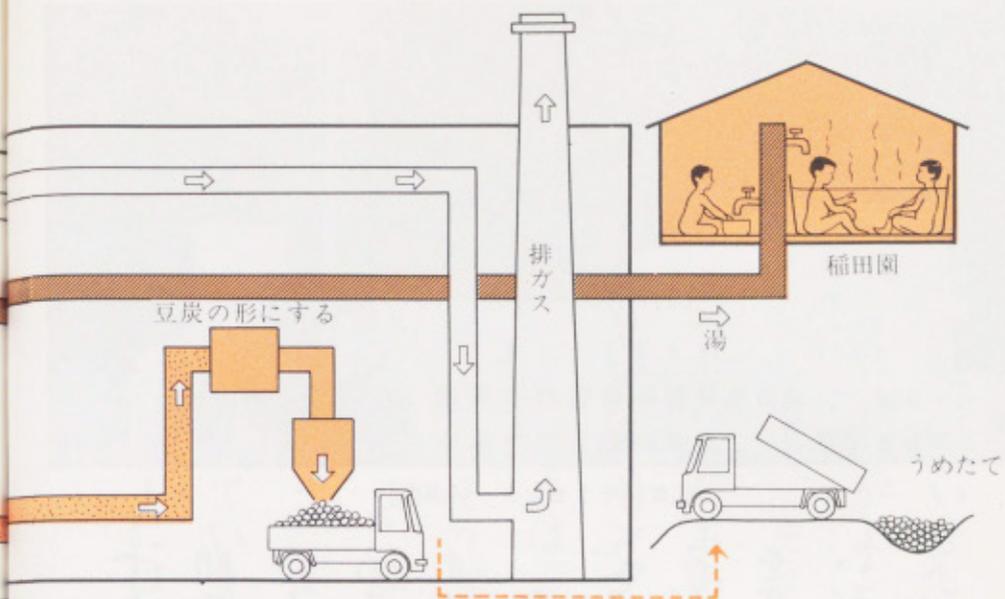
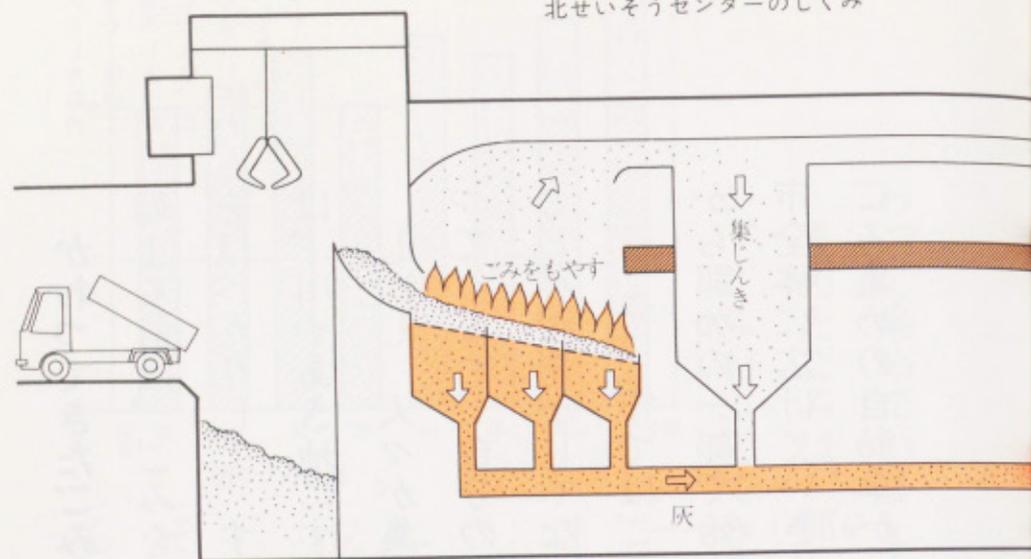
このセンター
には、何のた
めに、いろい
ろなくふうが
してあるの
でしょう。

たちが話し合いをして決め
ました。そこがよばれるこ
とがあるので、そうじ当番
を決めている所もあります。
北せいそうセンター ご
み集めの自動車はごみを、
須衛の北せいそうセンター
に運びます。ここは市の北
のはずれにあり、まわりを
山にかこまれています。
このセンターには、一日



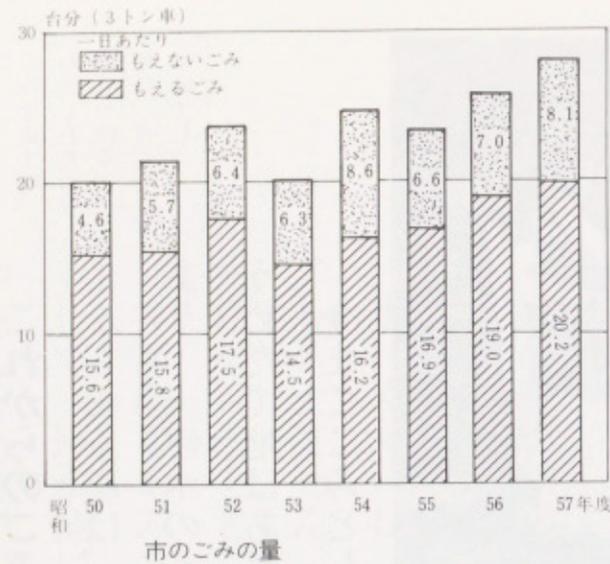
蘇原野口町ふきんのごみ集積場所（昭和58年）

北せいそうセンターのしくみ



話してくださいました。
 「ごみの重さをはかってみると、その半分以上が水分です。たいへん、ふえい生だし、お金もよぶんにかかります。
 また、水で機械がさびたり、もえるごみの中のあきかんが熱でとけてつまったり、まじっているガスボンベがばく発したりすることがあります。そんな時には、機械を止めなければなりません。」
 お話を聞いて、ごみの出しかたに気を付けなければいけないと思いました。

にならないように豆炭まめたんの形にかためてから、うめたて地に運んでいます。
 あきかんや電気器具きぐなどから出る鉄は、くず鉄として売られていきます。
 主な機械は中央操作室ちゆうおうさうさしつから動かすことができます、全体では三十人が働いています。
 また、ごみをもやす時に出る熱で湯をわかし、近くの老人センターの稲田園いなだえんに送っています。
 北せいそうセンターでこまっていることセンターのおじさんが、次のように



わって集めていました。集めたごみは、那加と蘇原のごみやき場でもやしていました。昭和四十八年から、市でさだめたふくろにごみを入れて、家の人のごみ集積場所へもって行くことになりました。その後もごみはふえつづけたので、北せいそうセンターが作られ、昭和五十三年四月から運転を始めました。

わたしたちの家や、市のごみのしまつのしかたは、どのようにかわってきたでしょう。

かわってきたごみのしまつ ごみ集めが始まる前は、ごみを家でもやしたり、あなをほったりして、すてていました。なかには、川やあき地にすてる人もありました。しかし、人々が集まり、家がたくさんたつてくると、自分の家でごみをしまつすることがむずかしくなりました。そこで、市ではごみ集めを昭和三十三年から那加の一部で始め、その後、だんだん市全体に広げていきました。そのころは、ごみ集めの自動車が一けん一けんの家をま



ポリぶくろ



コンクリートやポリバケツのごみばこ



木のごみばこ

ごみのいれ物のうつりかわり

ごみを出す時、
わたしたちの
気をつけるこ
とは、どんな
ことでしょうか。

これからのごみのしまつ もえないごみや北せいそうセンターから出る灰は、一日あたり二十四・八トン(昭和五十七年度)あり、大伊木おおいぎのうめたて地に運ばれています。ところが、このうめたて地はあと数年でいっぱいになってしまふのです。



生ごみたい肥化そうち (昭和58年度から市の補助金がある。)

今までごみとしてすてていた物の中にも、もう一度利用できる物があります。古新聞などは工場で新しい紙になります。あきかんやあきびんも原料として使うことができます。生ごみも「生ごみたい肥化ひかそうち」で肥料ひりょうにかえることができます。ごみをへらすくふうを、わたしたちもしていきましよう。

わたしたちの家では、ひと月にどれくらいの水を使っているでしょうか。

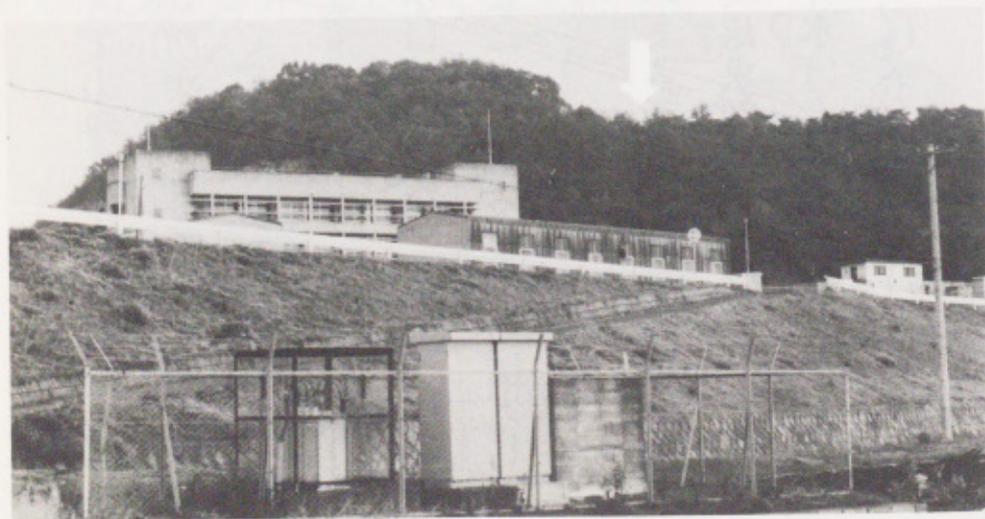
2 市の水道

水道の水はどこからくるか わ

わたしたちは、毎日たくさんの水を使っています。この水はどこからくるのでしょうか。

水げん地には、広い水面もタンクも見えませんが、市の水道は全て井戸から水をとっているのです。

井戸からくみあげた水は、消どくして、浄水池じょうすいに送り、ここですっきりしたためます。そして、ここか



三井水げん地の井戸(手前)と水道事務所(道の向こう)(矢印は山の上の配水池)

ひとりひとり
や、市全体で
使う水の量が
ふえてきたの
は、なぜでし
ょう。

わたしたちの
家に来ている
水は、どの
水げん地の水
でしょう。

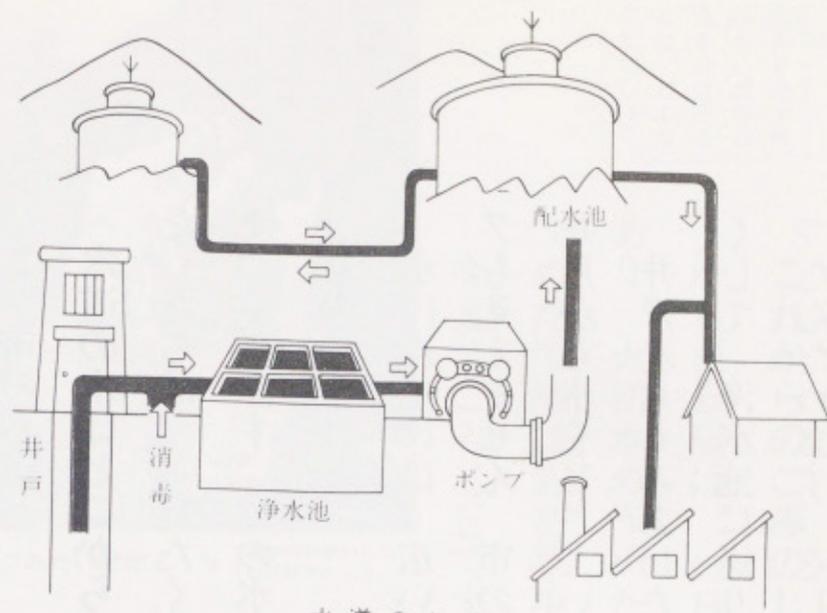
わたしたちの使う水の量
ひとりひとりが使う水の量は、むかしとくらべると多くなりました。

配水池は十五あります
が、近くのものどうしは
つながっています。もし、
どこかの水がたりなくな
ったら、他の配水池から
水を送るようにするため
です。



- 三井、鷗沼東部の水が送られているところ
- ▨ 蘇原の水が送られているところ
- ▩ 西市場の水が送られているところ
- 水源地(井戸)
- △ 浄水池
- 配水池、受水池

市の水道のしせつ



水道のしくみ

らポンプで山の上の配水池に上げま
す。高い所から低い所へ落ちる水の
いきおいで、わたしたちの家に水が
とどきます。
井戸水は川の水などよりきれいな
ので、よごれをとるそうちは少しで
すみます。
井戸のある所は、三井、西市場、
蘇原、鷗沼東部の四か所で、そのう
ち、三井水げん地が一番大きく、広
いはんに水を送っています。



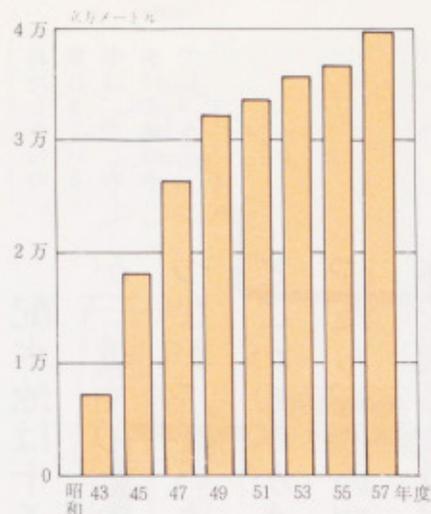
井戸をほる（三井）

水げんの井戸の数

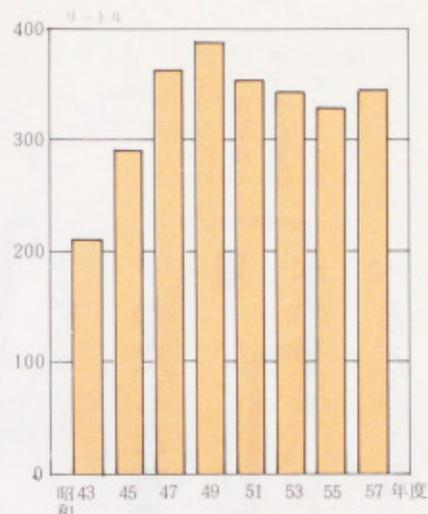
昭和	浅井戸	深井戸
43年	1	7
45年	1	12
47年	2	16
49年	2	15
51年	1	16
53年	1	17
55年	1	19
57年	1	19

浅井戸は深さ15m
深井戸は深さ50m～100m

これからも市の人々が安心して水を使えるよう、市では昭和六十五年までに、三井に五本、西市場に四本の新しい井戸をほる計画をたてています。



市全体で一日に使う水の量



一人あたり一日に使う水の量

むかしとは生活のしかたがかわって、電気せんとく機・家庭ぶろ・食事の後しまつなどにたくさんのお水を使うようになったからです。しかし、昭和五十一年ころからは一人が使う水の量は、あまりかわっていません。生活のしかたが、だいたいだまってきたからでしょう。

市全体で使う水の量のほうは、年ごとにふえています。市の人口がふえているので、ひとりひとりがむだ使いをすれば、水はすぐたりなくなってしまう。

水道をふやす計画 市では、人口がふえるのにあわせて、水道のしせつをふやす努力をつづけてきました。何年も先までの人口と一人あたりの使う量をよそうして、工事を進めてきたのです。水の心配がいらす、いつも水のあるくらしができたのは、そのためです。



市内でおこった交通じこ

新しいせんで作られているため、もえやす
いだけでなく悪いガスが出て、人の命をうば
うきけんも多くなってきました。
新聞を見ると、毎日のように交通じこの記
事がでています。毎年多くなって、五十八年
には全国で九千五百人近くの人がじこで死に
ました。
車の台数がふえてはきていますが、どうし
てこんなにじこが多くなったのでしょうか。
この「安全な生活」では、さいがいから人々
を守るために、市はどのようなことをしてい
るのか、また、近くの市や町とどのような協
力をしているのかを学習します。



市内でおこった大きな火事

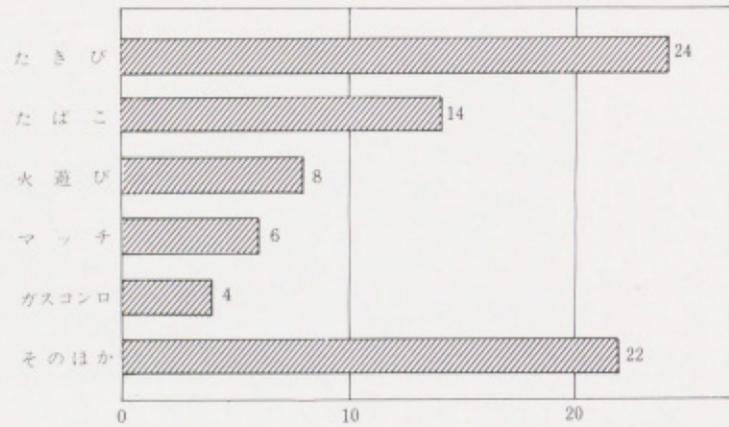
二 安全な生活

わたしたちのまわりでは、火事、大水、地
しん、交通じこなど、いろいろなさいがい
おこっています。

各務原市でおこるさいがいは、火事と交通
じこがほとんどです。

火事は、おもに十二月から三月にかけての
冬場に、多くおこっていて、たばこやたき火
のちよつとした不注意から、大きなさいがい
になっています。

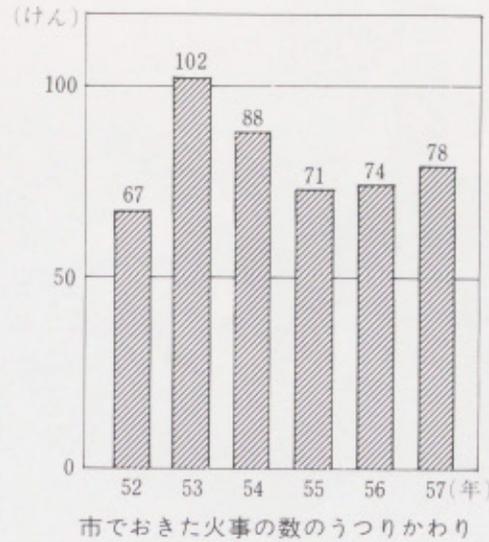
また、最近の火事では、家が新しい材料で
たてられていたり、ふとんやカーテンなどが



火事のげんいん (昭和57年度・各務原市消防本部調べ)

たしたちは、火事についてくわしく調べることになりました。

いて話しながら帰りました。
 次の日、学校で火事のことを話すと、先生が、市でおこった火事のうつり変わりや、げんいんのグラフを見せてくださいました。
 みんなで、グラフを見て話し合いましたが、話しているうちに、火事を消したり、防いだりする仕事やしくみはどうなっているのだろうなど、わからないことが、たくさん出てきました。そこで、わ



市でおきた火事の数のおつりかわり

自分たちの住んでいる地いきて、おこった火事について調べてみましょう。

1 火事をふせぐ

この間、近所きんじよで火事がありました。

どこかで、「火事だ」という声があったので、外に出てみると空はまっかで、パチパチと大きな音がしていました。

お父さんと火事のようにすを見に行くと、もう何台もの消防自

動車が来ていて、びっくりしました。

消火をしている人は、消防しよの人だけでなく、あちこちの消防団だんの人もいっしょになって働いていました。

火事は、すぐに消えました。帰りに、お父さんと、火事のげんいんや、ひがいつ



西消防しよ

車など	消防しよ	西	東	北	南
ポンプ車		3	2	2	2
はしご車・化学車		2	0	0	0
工作車		1	0	0	0
指れい車		1	1	1	1
きゆう急車		1	1	1	1
消防士		35	27	20	20

昭和57年現在

消防しよのしくみ 西消防しよは、鉄きん二階建てで、高い見はりとうがあります。

一階には、広い車庫があり、ポンプ車やはしご車などが、すぐ出動できるようになっていています。車庫のまわりのかべには、消防

服や長くつが、いつでも使えるように、きちんとならべてあります。車庫の横には、通信室や待機室、仮眠室などがあります。

消防しよ見学の計画

◎見てくること

- ・どんなしせつや道具があるか。
- ・どんな仕事やくふうをしているか。

◎聞いてくること

- ・火を消す以外にどんな仕事をしているか。

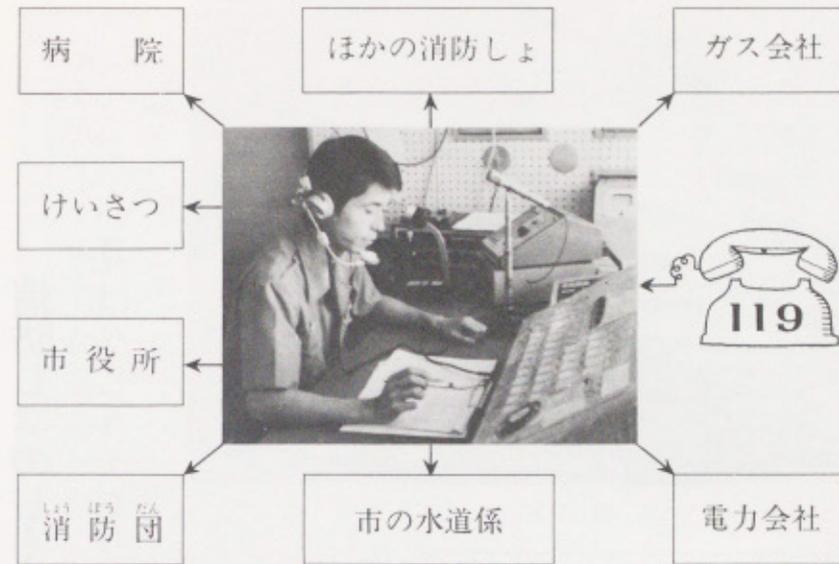
- ・市内の消防しよなど火事をふせぐしせつびの位置はどうなっているか。
- ・近くの市や町と協力しているか。
- ・どんなくろうがあるか。

消防しよの見学 火事のことを調

べるために、消防しよへ見学に行くことにし、見学の計画を立てることにしました。

まず、火事について知りたいことを出して話し合い、大切なことを上の表のように、まとめました。

それから、見学のグループを決め見学の時に気をつけること、消防しよまでの道順、持ち物なども話し合いました。



通信室のはたらき

二階には、事務室があり、火事を防ぐための仕事をしています。火事は、いつおこるかわからないので、夜もつとめなければなりません。そのため、こうたいで、毎日二十人ぐらいの人が、いつでもつとめに出ています。

通信室に火事の知らせが入ると、すぐに消防自動車に出動の指れいを出し、消火活動に出かけますが、けいさつや電力会社などにもれんらくします。

消防しょの人たちは、火事を消す仕事のほかに、どんな仕事をしているのでしよう。

消防しょの仕事 消防しょの

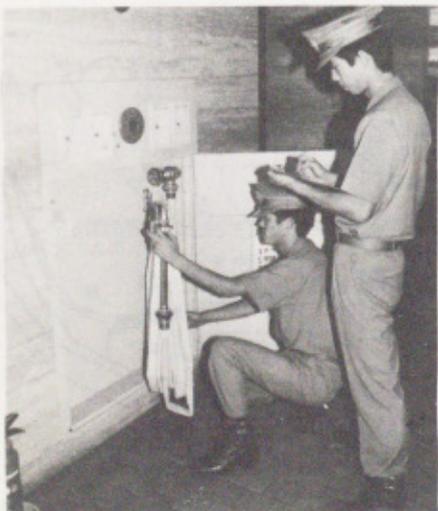
しごとは、火事を消す活動だけではなくありません。

町の中の、消火せんや防火水そうを見まわって、いつでも使えるようになっていくかたしかめたり、人の集まる役所、学校、病院などの消火せつびが、整っているか調べます。

また、火事をふせぐための、こうしゅう会を開いたりします。



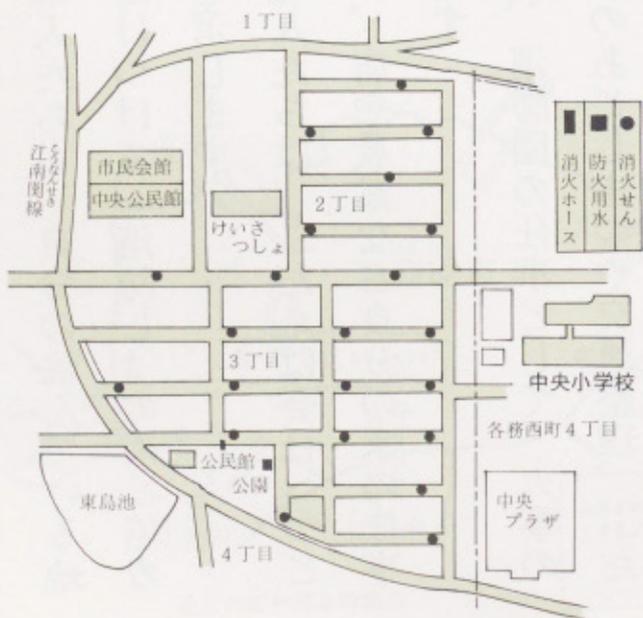
消防自動車の手入れ



消火せつびのてんけん

家や学校の近くの、消防せつびは、どのようにおかれていますか、調べてみましょう。

火事をふせぐしくみ わたしたちの住んでいる地いきにも、火事をふせぐための、消火せんや防火水そうなどの消防せつびがあります。これらは、市役所が消防しよと、どこに作るかを相談して決め、市のお金で作っています。そのほか、地いきの人たちも、自分たちで消火器などを用意しています。



消防しよの位置 市には、西(那加)・東(鶉沼)・北(蘇原)・南(稲羽)の四つの消防しよがあります。これらの消防しよは、火事がおきた時、早く消火活動ができるように考えて、位置が決められています。また、それぞれの消防しよは、受け持ちの区いきが決まっています。火事の際は協力します。

消防しよと消防団 (昭和58年8月)





消防団の人たちの道具の手入れ (古市場)

消防団 しょうぼうだん 火事の際に、消火活動にあたるのは、消防しよの人だけではありません。消防団の人たちも、自分の住んでいる地いきで火事がおけるとすぐにかかけつけて、消防しよの人と協力して火事を消します。

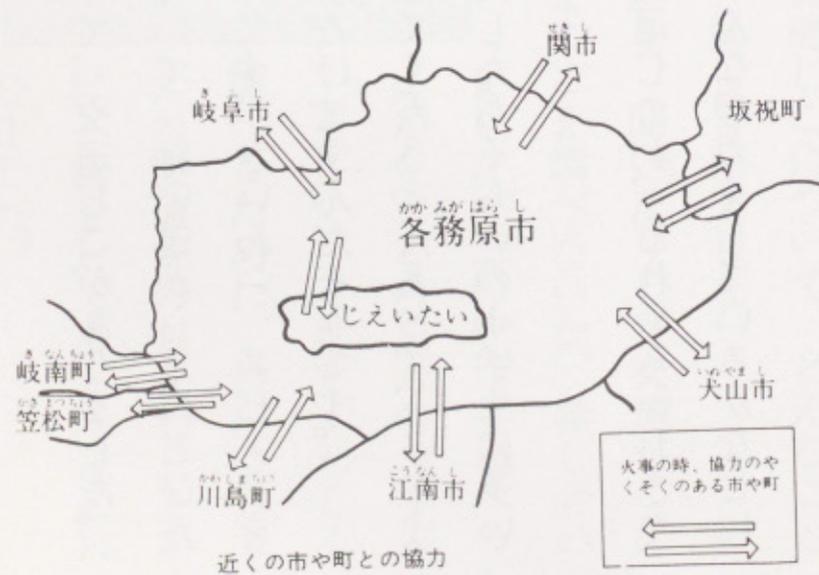
消防団の人たちは、ふだんは会社へつとめていたり、店や農業など自分の家の仕事をしています。

そのほか、消防団の仕事として、火事の際は、火事のあとしまつや交通整理、ふだんは、町内の消防せつびの見まわりや、消火くんれんなどをします。

近くの市や町との協力 市で

は、大きな火事の時や、ほかの市や町とのさかいで火事があった時など、おたがいに、消火の協力をし合うよう、やくそくをしています。

このおかげで、近くの市や町からおうえんにきてもらえるようになり、そのため消火が早くなって、火がひろがるのもふせげるようになりました。



近くの市や町との協力

自分たちの学
校や地いきで
おきた、交通
じこについて
調べてみまし
よう。

2 交通じこをふせぐ

このあいだ、わたしの家の近くで、交通じこがありました。

おじいさんが、自転車に乗っていて、細い道から急にとびだし、自動車にはねられたというのです。さいわい、スピードを出していなかったので、軽いけがだけですんだそうです。

先生が、このじこの様子を話してくださったあとで、このよ
うなじこは、おとしよりと、わたしたちくらいの小学生に多い
と教えてくれました。

わたしたちは、市ではどんな交通じこが、どれくらいおきて
いるか、じこをふせぐために、どんな努力をしているかなどに
ついて調べることにしました。

調べる計画

わたしたちは、交通じこについて、どんなこと
を、どうやって調べたらよいか、話し合いました。

まずみんなで、自分たちが見たり、聞いたりした交通じこに
ついて話し合い、そのあとどんなことを調べたいか、話し合い

調べること

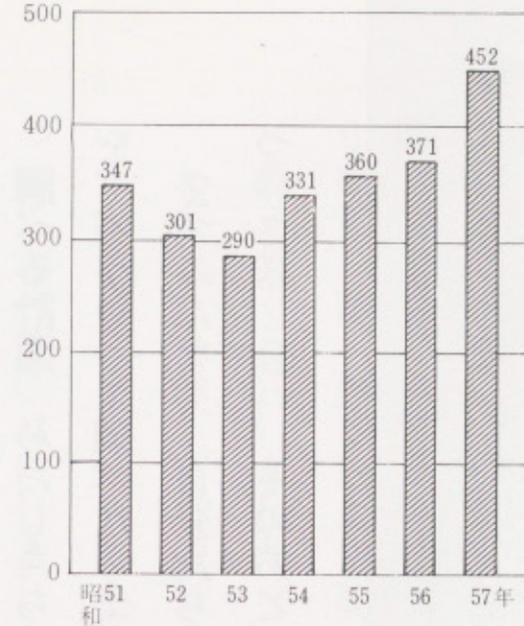
1. 市でおきた交通じこのうつり変わり。
2. じこのげんいん。
3. じこをふせぐしせつ。
4. じこをふせぐ努力。
5. じこをふせぐ、人々の協力。

ました。上の表は、調べる
ことをまとめたものです。
そして、それをくわしく
調べるために、けいさつし
よの交通係のおまわりさん
に、話をしてもらうことに
しました。

市でおきた交通じこげんいん

四十五年に六〇〇けんあつたじこは、その後少しづつへりましたが、五十四年からふたたびふえはじめました。毎日一けん

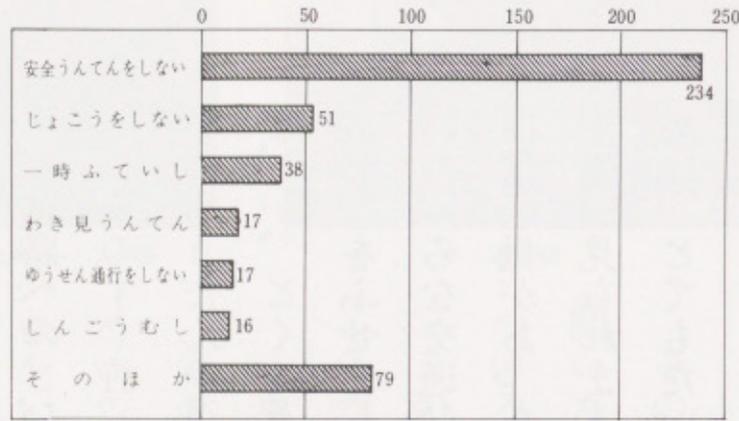
交通じこの数 (各務原けいさつしよ)



以上おきていることになりました。車の台数は、ふえつづけていてどの道も車の行き来が多くなっています。全体の半分ほどは市道でおこっています。

交通事故をおこした人は、全部

交通じこのげんいん (昭和57)



死んだり、けがをした人の数

年	死んだ人	けがをした人
52	9人	391人
53	13人	374人
54	7人	431人
55	8人	451人
56	9人	457人
57	10人	634人

(各務原けいさつしよ)

市の人というわけではなくて、五十七年の場合、やく四わりは市外の人でした。

じこのげんいんでは、よく注意せずに、車を動かしたり、止めたり

するなどの、安全運転をしないというものが一番多く、全体の半分をしめています。

じこをおこした人では、若い人がとても多く、全体の半分ぐ

らいになっています。

学校でおきた
交通じこのげ
んいんを、調
べてみましょ
う。

小学生のじこでは、五十六年には二十三人、五十七年には二十九人がけがをしました。このようなじこは、

○道路へのとびだし

○車のすぐ前、すぐ後ろをあわててわたる

○おうだん歩道で、注意しておうだんしない

などが、とくに多いげんいんとなっています。

じこをふせぐしせつ 道路を歩いていると、丸や三角をした

いろいろな交通ひょうしきがよく見られます。また、交差点では信号機があったり、交通りょうの多い道路では、歩道橋や地下道が見られます。これらの多くのしせつは、じこをふせぐために、とてもたいせつな役目をはたしています。



歩道橋



フェンスのついた歩道

そのため、けいさつしよでは、みんなのねがいを聞いたり、調べたりして、おうだん歩道や信号機をつける仕事をしています。

このほか、市や県や国では、

○カーブミラーやガードレールをつける。

○歩道橋や地下道をつける。

○道路のはばをひろげたり、歩道をつくる。

といった仕事を進め、交通じこをなくすために、努力をしています。

じこをふせぐ努力 交通のはげしい道路の、交差こうさ点てんや、見通しの悪いおうだん歩道などで、交通整理



学校での交通安全教室

をしている、おまわりさんをときどき見かけます。

また、ようちえんや小学校などでは、白バイやパトロールカーを使って、「交通安全教室」が開かれています。

このように、けいさつでは交通じこから人を守つたり、交通のきそくを教えたりして、じこをふせぐ努力をしています。

じこをふせぐための人々の協力 朝、登校の時、交差点で黄色いはたを持った、お父さんやお母さんを、見かけることがあります。これは、朝になると、つとめに出かける人の車で、と

くに交通がはげしくなるので、じこのおきやすい所で、PTAの人たちが、交たいで交通整理をして、子どもたちをじこから守っているのです。

このほか、おまわりさんと同じような服そうをした人たちが、交通指どうをしているのも見かけます。この人たちは、「交通安全協会」や「交通安全指導隊」の人たちで、人々をじこから守ろうとしてはたらいっているのです。

このように、じこをふせぐため、多くの人々が協力をしています。

火事や交通じこのほかに、どんなさいがいがあり、人々はこれをふせぐため、どのような努力や協力をしているか、調べまじよう。



交通整理をしているPTAの人たち



保健文化会館

三、市の人々のゆたかな暮らし

わたしたちは、これまでの学習で、市の人びとのくらしをよくするために、けんこうや安全を守る仕事やしきみがあり、また、近くの市や町と、協力きょうりょくしあっていることを学習してきました。ここでは、市の人々のくらしをゆたかにするために、市がどのような仕事をしているかについて学習します。

市の人々が、学習したり楽しんだりするために、利用りようできるしせつがあれば、人々のくらしをよりゆたかにすることができるとはならないでしょうか。

そうした市のしせつには、どんなものがあるのでしょうか。

わたしたちも行ったことのある、公民館、市民会館、ふくしセンターなどは、そのやくわりをはたしているしせつです。

そこで、たくさんの人々が利用している保健文化会館をとりあげて、

○それは、市の人々のどのようなねがいからできたのか。

○市の人々のくらしにどのように役立っているか。

○市はどのような役わりをしているかなどについて調べてみることにしました。

保健文化会館
では、どのよ
うな活動をし
ているのか、
家の人に聞い
て調べてみま
しょう。

― 保健文化会館と人々の暮らし

「保健文化会館の活動で、知っていることはありませんか。」
と、先生がたずねられました。

みんなから、

「となりのおばあさんが、手芸しゅげいを習いに行っているそうです。」

「わたしのお母さんが、『料理を習いにいき、とても勉強にな
った。』と話していました。」

などと、いろいろな話ができました。

わたしたちは、保健文化会館がどのようにしてできたのか、
保健文化会館は、地いきの人々のためにどのように役にたっ
ているのかを、くわしく調べることにしました。

注 会館の中
で、公民館の
はたらきをし
ているのは生
がい教育セン
ターです。

保健文化会館の見学の計画 「保健文化会館のことを調べる

のだから、まず、みんなで保健文化会館に行ったらどうですか。」
と、たかし君がいました。

会館の見学に行く前に、

消防しよの学習の時のよう
に見学の計画を立てました。
みんなで、調べたいこと
を出し合い、見てくること、
聞いてくることに分け、グ
ループごとで中心に調べて
くるものを決めました。

保健文化会館をたずねて調べること

。見てくること

・会館の中はどのようなになっているか。

。聞いてくること

・会館はどのようにしてできたのか。

・会館はどのような活動をしているのか。

・そのほかの六つの公民館はどうなってい
るのか。

保健文化会館ができるまで

わたしたちは、館長さんに
会館が、どのようにしてつく
られたかを聞きました。

館長さんの話をまとめると
下の表のようになりました。

わたしたちは、館長さんの
話から、会館は市の人々の意
見やねがいから、市がつくつ
たものだということを知りま
した。また、会館をつくるこ

保健文化会館ができるまで

昭和五三・交通の便利な所に公民館を
つくってほしいというねがいが
たかまった。

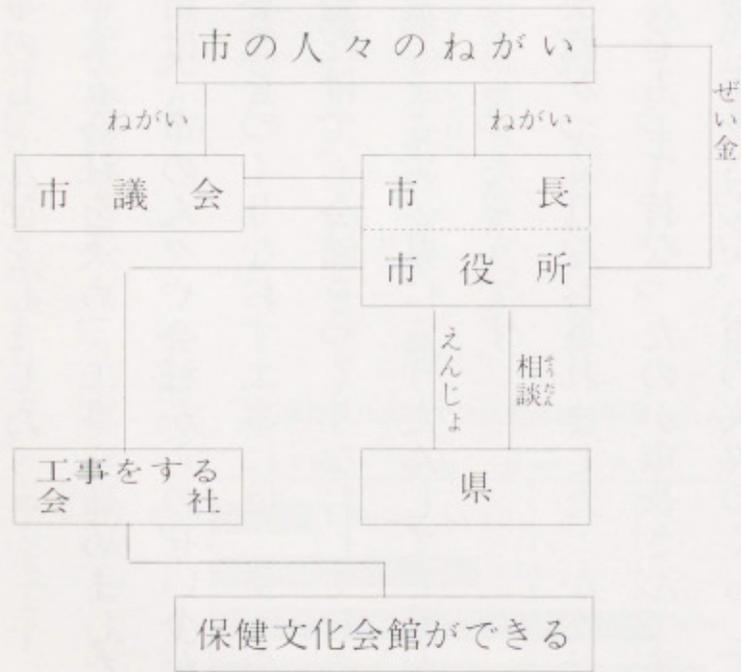
昭和五三・三月に市議会でもとの中
央病院を会館につくりな
おすことが決まった。

。四月に会館がつくりなお
された。

。九月公民館活動がはじ
まった。

とを決めるたいせつな役目を、市議会がはたしたことがわかり
ました。

館長さんは、次に
会館ができるまでの、
市の仕事のしくみを
話してくださいまし
た。
市議会で、会館を
つくりかえることが
決められたあと、市
役所の係の人が、こ





手芸教室

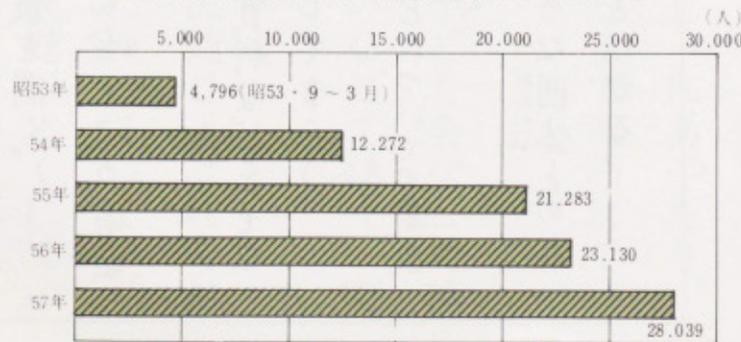
保健文化会館の見学 わたしたちが、会館の中を見学している間にも、いくつかのへやで、活動が行なわれていました。

みんなは、大ぜいのお母さんやおばあさんたちが、料理講座や手芸教室で、熱心に勉強しているのを見て感心しました。

館長さんが、

「保健文化会館では、こうした活動が、いま十三年あり、これからもふやしていく予定です。ま

保健文化会館で公民館活動を利用した人の数



まかい計画を立て、工事のじゅんぴをしました。そして、市は、工事をする会社を決め、工事を始めました。この工事にかかる費用は、市の人々や会社からのせい金が使われました。しかし、会館をつくりなおす工事には、多くのお金があるので、市のお金だけで、会館をつくりなおしてしまうことはできませんでした。そこで、県にそうだんして、県から費用の半分近くを出してもらったそうです。

こうして、保健文化会館がつくりなおされました。かんせいまでの仕事を、せきにんをもって行なったのが市長さんです。わたしたちは、市議会や市長さんが、市の人々のくらしで大変なことを決めたり進めたりしていることを知りました。



稲羽の公民館

地いきの福祉センターのたてものの中にいっしょにあつたり、小学校や中学校の体育館などが、そのかわりとして使われています。

公民館とよくにたしせつに、わたしたちが子ども会などで使ったり、町内の人たちがよりあいなどで使う、町内ごとの集会所があります。

この集会所は、ふつう町内公民館とよばれており、おもに町内の人たちが中心に使っています。この集会所の役わりも、市の公民館によくにたしています。市内には、このような町内公民館が百以上あり、わたしたちのくらしに役立っています。

た、こうした活動のほかにも、市の人々のためにいろいろな活動をしています。」「
といて、公民館の役わりを教えてくださいました。

そのほかの公民館 公民館は、

市内に十六あります。会館のほか、那加、稲羽、蘇原、鶉沼東・西、中央には、りっぱなたてものがたっています。

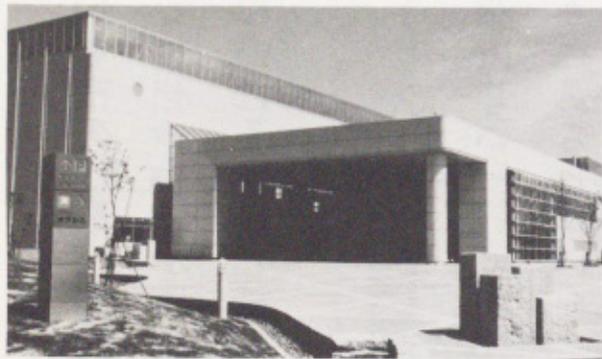
しかし、他の九つの公民館は、

- 公民館の役わり
- 青年学級を開く。
- とろろん会やこころ習会を開く。
- 図書や資料などをそなえ利用してもらう。
- 体育などについての集まりを開く。
- いろいろな団体とのれんらくをはかる。



老人福祉センター稲田園

おとしよりが楽しく、おふろに入ったり、話やゲームで
すこせるようになっています。



各務原市民体育館

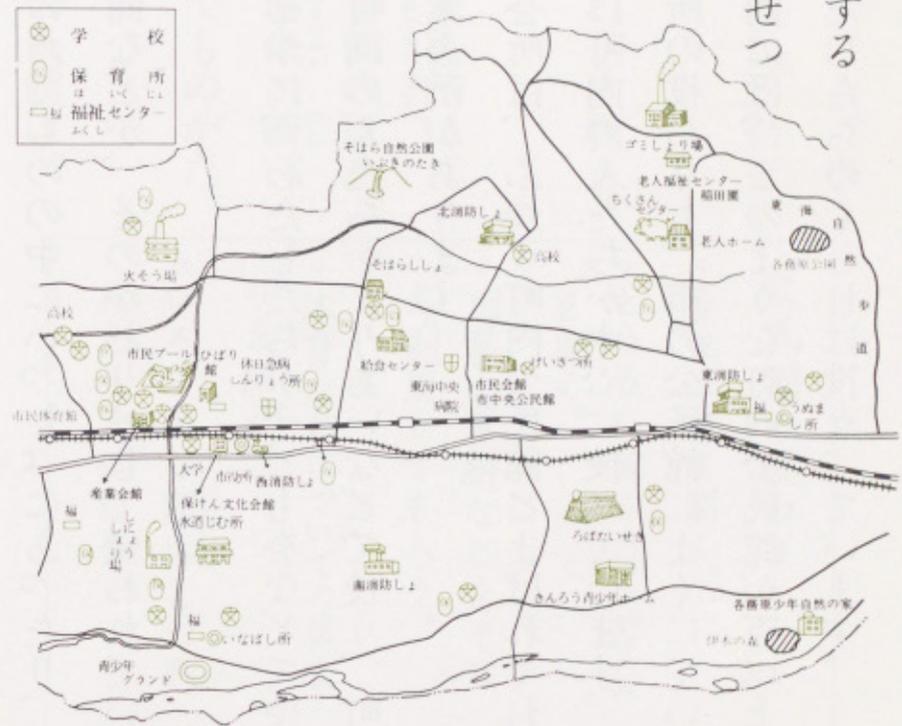
いろいろなスポーツ教室もおこなわ
れ、市民の活用の場となっている。

調べてみました。
市市には、老人福祉センター稲田園、
会館、各務原公園、伊木の森、少年自然の家など
せつがありました。

また、わたしたち
がたのしみにしてい
た市民体育館も完成
し、大きな競技会も
できるようになりま
した。

下の絵地図の
ように、人々
のくらしをゆ
たかにする市
のしせつを、
地図などでさ
がし、白地図
にかき入れを
しましょう。

2 ぐらしを豊かにする
市のしせつ
わたしたちのぐら
しをゆたかにするし
せつは、公民館だけ
ではありません。
そこで、わたした
ちは、市の地図やし
せつのしりょうを使
って、ほかにどんな
しせつがあるかを、



市の人たちのぐらしをゆたかにするしせつのあるところ

ほしいしせつ
についてのク
ラスの意見や
家の人の意見
を調べてみま
しょう。

みんなのねがいと市の仕事 わた
したちは、今あるしせつのほかに、
ほしいしせつはないだろうかと話し
合いました。

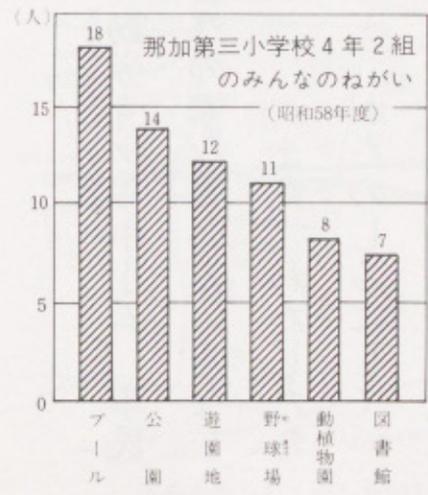
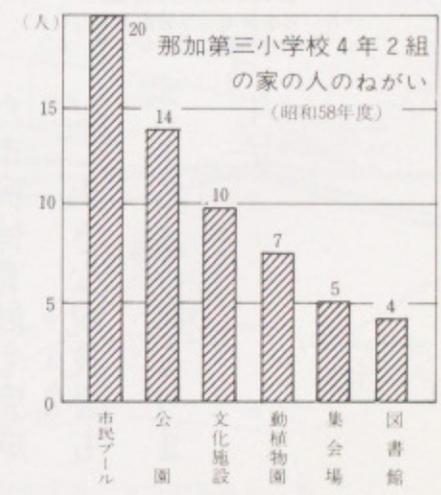
みんなから、

「大きな図書館がほしい。」

「広い公園が近くにあるといいな。」

など、たくさん意見が出ました。

わたしたちは、クラスの意見と家
の人の意見の、おもなものをまとめ
てみました。



市は、どんな
仕事にどれだ
けのお金を使
っているか調
べてみましょ
う。

先生が、

「みなさんは、いろいろ

ろなねがいをもってい

ますが、一度にはでき

ません。市が人々のた

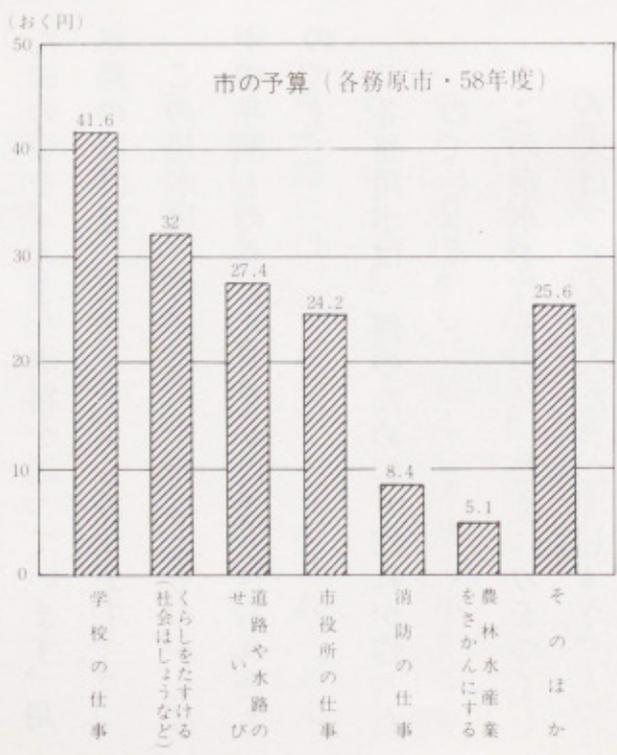
めに行なっている仕事

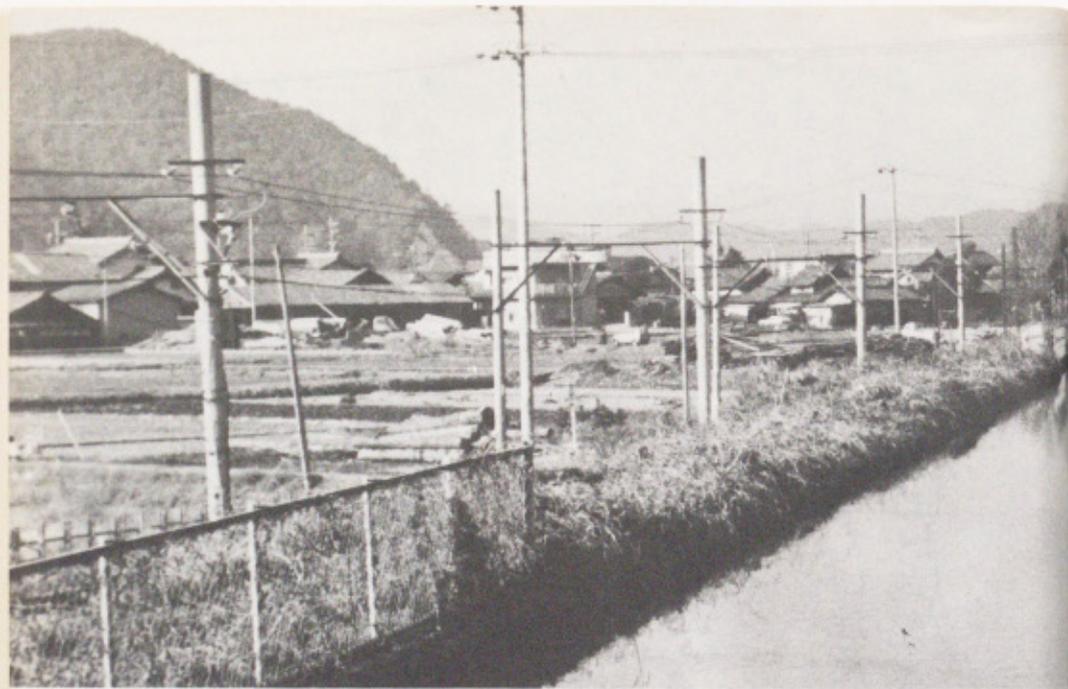
は、ほかにもたくさん

あります。」

といて、市の予算のうちわけを見せてくださいました。

わたしたちは、市は市の人々の生活をよくするために、多くの仕事を計画的に進めていることがわかりました。





四 きょう土を開いた人々

——各務用水をつくる——

上の写真は、「各務用水」です。広々とした田の中を、大きな水路が通っています。用水路のはばは、六メートルもあります。

この用水は、今から八十年以上もむかしに、十四年間もの長い年月をかけて、作られたものです。

○各務用水は、何のために、だれが作ったのでしょうか。

○この用水を作るのに、とくに力をつくした人は、どんな人だったでしょう。

○用水路を作るのには、どんなくろうや苦心があつたのでしょうか。

○この川から、どんな方法で水がとられていてしょう。

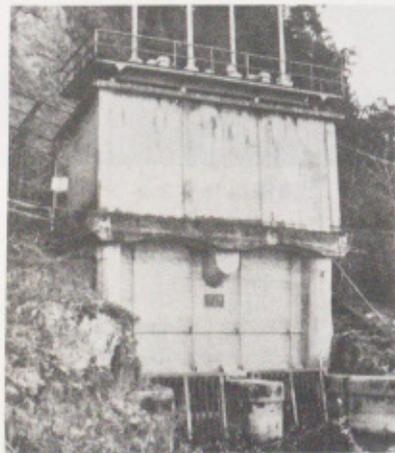
○水路には、どんなくふうがされ、どんなしくみで、流れているのでしょうか。

○この用水の水を利用している人は、この地いきの人々で、どんな仕事をしている人でしょう。

このような問題をもって、「各務用水」を見学したり、お年よりから話を聞いたたりして、くわしく調べましょう。

※ 幹線水路
は、用水の流
れの中で、中
心となってい
る水路のこと
です。

各務用水は
どんなどころ
を通っている
か調べましょ
う。



①長良川の取水口



②低いところを通る水路

取り入れ口と幹線水路 各務用水の水は、関市小瀬の長良川から取り入れられています。取水口のあたりの長良川は、川ぞいがとても深くなっています。長良川の本流から分かれた、とてもきれいな水が、速いスピードで、音をたて、取水口にすいこまれていき、見ていると目がまわりそうです。水は、取水口から、すぐトンネルに入ります。

各務用水の見学

下の地図の番号のじゅんじよで、上流から下流へと観察することになりました。

○用水路のまわりのよう
すと水の使い方

○用水路を作るためのく
ふう

について、とくに注意して
見るようにしました。

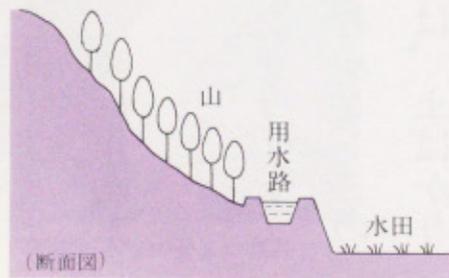


※サイフォン
サイフォン
とは、地面の
上を流れてい
た水が、地中
を通過しても
一度少し低い
地面の上に出
てくるしくみ
のことです。

高いところを通る水路 津保川をわたった水は、山ぎわをけ
ずった場所を通ります。
このあたりでは、用水をできるだけ高いところを通すこと、
大切な田や畑をつぶさないようにすることなどを考え、まっす
ぐ通さないで、山にそってカーブさせています。
また、土地の低いと
ころでは、たくさん
土を盛り上げ、土地を
高くして、その上に水
路を通すという方法で
作られています。



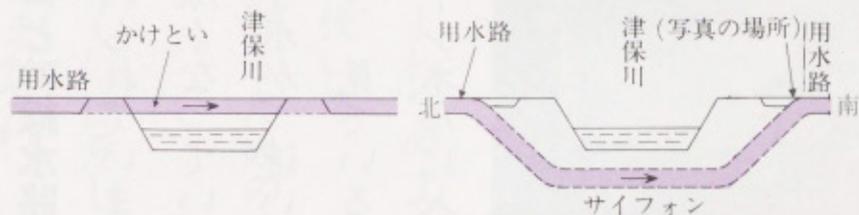
④山ぎわを通る用水路



サイフォンができる前の「かけとい」

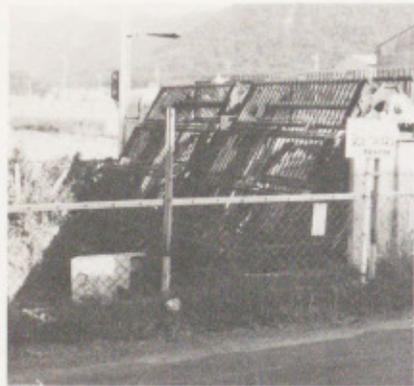


③津保川サイフォン

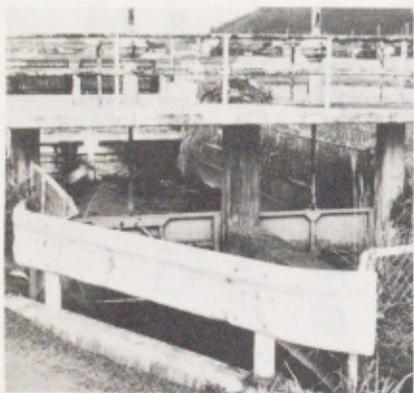


断面図

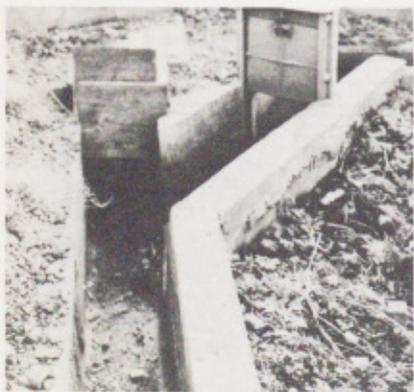
津保川サイフォン 関市小瀬で
用水路に入った水は、幹線水路を
通り、津保川にさしかかります。
ここは、サイフォンになっており
図のように、川底を通っています。
このサイフォンは、昭和四十九
年に作られました。その前は、
左の写真のような大きな「とい」
でわたしていました。
この「とい」は、大水で流され
たこともありました。



⑥ごみ取り機とフェンス



⑦分水のようす



⑧田のそばのせまい水路

いろいろなせつび 長良川から取った水を、二十キロ以上もはなれた田に、できるだけたくさん送るために、と中にいろいろのせつびがしてあります。サイフォンも津保川のほかに、三か所あります。時間がくると自動で動くごみ取り機、水を広い地いきに分けるための分水路、用水へ人が落ちないようにするためのフェンスなどが作られています。



⑤ 高いところを流れる水路



断面図

この、低いところを高くする土は、山ぎわをけずった時に出た土を利用して使います。

現在の水路は、コンクリートで作られています。むかし、このあたりは、土ばかりで作られていたので、つゆや台風などの大雨によって、よくこわれ、農家の人々を苦しめました。

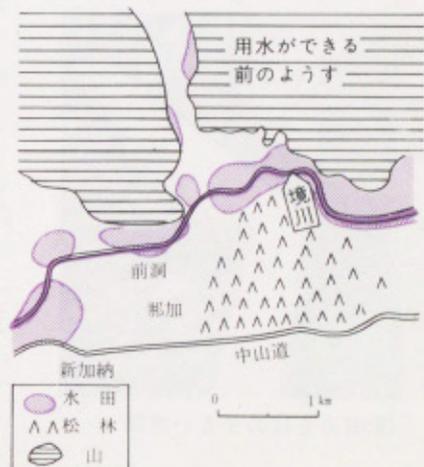
二つの地図
のちがいを調
べてみましょう。

2 水がほしい農民

百年ほど前の各務原市には、大きな工場や店はありませんでした。人々のおもな仕事は、農業だけでした。

農家の人々は、農業の中でも、そのころ一番大切な食べ物であった「米」を作ることに熱心でした。

しかし、各務原は、台地が多いために、米が作れるのは、川にそった低い土地や、谷川から水がとれる山ぎわの土地だけでした。



そのころ、
米をどれほど
大切にしたか
を、家の人に
聞いてみまし
よう。

それでも、農家の人々は、なんとか米を作ろうと努力しました。水田の多くは、雨水だけをたよりにするので、日取りが長く続くと、水不足のため、米のとれ高が、うんと少なくなりました。時には、稲がかれ、少しも米のとれない年もありました。

明治十六年（今から約百年ほど前）には、とくに強い日取りにみまわれました。そのため、夜通し田の水の番をする日が、いく日も続いたり、川のたまり水を、おけてくんで田に入れたり、木のぼうで、苗をうえるあなをあけ、そこへやかんで一かぶ一かぶに水をそそぐという努力までしました。



木のぼうとやかんによる田植え



田へ水をくみ入れるおけ

また、雨をふらせてもらおうと、神さまにおいのりしたり、みんなが、火のついた「たいまつ」を持って、夜、山にのぼっておいのりする、「雨あまごい」などもしました。こんなくろうのために、日でりが長く続くと、病気になったり、死んだりする人もあったほどでした。

しかし、これだけ努力をしても、水がないために、稲がかわてしまい、ほんのわずかしかとれない年が、何回もありました。

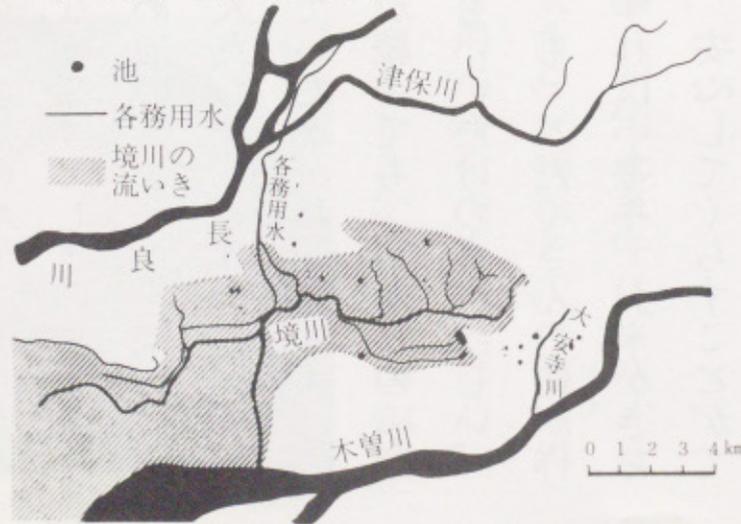
境川やため池 各務原市の北部に、北東の山地をみなもとにする境川さかいが西に向って流れています。この川からも、くふうして水をとっていました。次

境川の長さ
と長良川の長
さをくらべて
みましょう。

の地図でわかるように、水源げんとなる地域ちいさがせまいことから、日でりが続くと、すぐ水がなくなつてしまいました。そのため、田に水がほしい田植えのときなど、境川の水が、まったく使えませんでした。

また、山すそに、小さなため池をたくさんつくり、水をためておいて、たくさん水がある時に使うようにしました。

雨水が境川へ流れこむ地いき



ため池のきまりはなんのためにつつたか考えてみましょう。

ため池のきまり

かぎりある谷水だ。みだりに畑を田にしたり、新しく田を開いたりすると、米を作る水が不足するのは明らかだから、次のようになやくそくをする。

○新しく通常田を開く者は、一反(約十アール)につき、五円以上、五十円以下のはんいで、お金を出すこと。

○三日田は、毎年夏至より二百十日までの間に、引き続き三日間以上雨が降らない時は、田に水を入れてはいけない。

○日でりが続いて水が不足してきたら、新しく開いた田は、水を入れることをえんりよすること。
(昔からの村のきまり)

しかし、このため池の水も、日でりが長く続くとなくなってしまう。

上の「ため池のきまり」を読むと、そのころの人たちが、どれほど「水」を大切にしていたかがわかります。

「日でりが続いてても、水かれの心配をしなくてもいいだけの水がほしい。水があれば、もつとたくさん田が作れる。そうすれば、毎年、お米がきちんととれて、安心してくらすことができる。」これが、この土地に住む人々の

強いねがいでした。

3 用水路をつくる計画

用水路をつくる計画 明治十三年に、水ぶそ

くに苦しんでいた人たちが相談して、津保川から水を取り入れる用水路をつくってほしいと、岐阜県にねがい出しましたが、なかなかゆるしが出ませんでした。



横山忠三郎

した。

津保川からの用水計画が進まないで、こんどは、長良川から水をひく計画をたてました。この計画を進



横山忠三郎の記念ひ (蘇原)

水がほしいのに、なぜ反対をするのか考えたことをまとめてみました。

めたおもな人々は、横山忠三郎（稲葉郡）、岡田只治（山県郡）、後藤小平次（武儀郡）でした。

横山忠三郎らは、よく考えて作った計画をせつめいし、みんなにさんせいしてもらおうように、十か村をまわって、話し合いをしました。

反対運動 はじめは反対する人は少なかったのですが、用水のこまかいきまりをつくる相談を始めたところから、きまりにふまんをもつ人が多

各務用水年表

年月	できごと
一三・三	用水計画を県へ願い出る。
一六	日でのため、大それた客。
一八	忠三郎用水発起人になる。昼夜相談するがまとまらない。
一八	岡田横山計画書を作る百人余りさん成する。用水を作る測量をする。
一九	一週間かかって相談し予算をたてるが費用の分け方に不満があて決まらない。
二〇	費用をさげることにして決まる。
二一	芥見の他、三村が反対する。
二二	計画通りにやることにする。
二二	むりやりに費用をとりにする。
二二・二	上台金村の工事始まる。
二二・六	完成
二二・七	忠三郎用水委員になる。
二二・八	工事費の立てかえり出す（忠三郎は各戸芥見工事反対を大臣に願い出る。
二二・二	芥見村で忠三郎がおそわれる。
二二・七	大雨のため、われる。掛樋の問題がおきる。
二二・三	用水の石垣がこわされる。
二二・七	はじめて水を通してこわれる。

くなり、反対が強くなったため、計画が進まなくなりました。

反対のおもな理由は、

○ 工事にかかるひ用のわりあてかたが、気にいらぬ。

○ たくさんのお金を出しても、ほんとうに水が自分の田までくるかどうかわからない。

○ 田や畑をつぶすのはいやだ。などでした。

反対する人たちは、計画をやめさ

かんたく者やめる。
忠三郎工事に金の支払いをせまられる。
二二・八 二つれた所をなおしはじめる。
二二・九 二つれた所が出来上がる。
二二・二 芥見村の反対が解決する。
二二・四 用水全部でき上がりほい時に水がくる。
二二・八 加納輪中が反対する。
二二・二 濃尾地しん起る。水路こわれる。
二二・五 知事になおす工事願い出る。
二二・六 取り入れ口に問題おきる。
二二・七 なおす工事が始まる。
二二・七 なおす工事終わる。
二二・七 日でのため、番水し昼夜田植えをするが米はみものらなかつた。
二二・八 大こう雨水路こわれる。
二二・七 忠三郎用水委員をやめる。
二二・七 日でり続く。
二二・七 忠三郎 通水委員になる米がよくとれた。
二二・七 大洪水つほ川大掛とい流失する。
二二・〇 なおしたつほ川掛といまた流失する。
二二・二 千足とせきについて話し合う。
二二・三 用水が丈夫になるようにいろいろ工夫する。
二二・四 八の字型せきが出来上がる。
二二・七 記念ひがでさ上がる。
二二・七 完成式が行なわれる。



むかしの工事のようす

んとうに水がくるか、心配だったのです。

工事の苦心 はげしい反対運動も、横山忠三郎たちの努力で、やがて、少なくなり、工事が始まりました。

今のように、進んだ機械やトラックの全くない時代でしたから、工事には、たいへんなくろうがありました。

それに、今までにやったことの

このころの人々のくらしのようすを、家の人に聞いてみましょう。

せようと、県や国へうったえたり、反対のえんぜつ会を開いたり、そくりようのじやまをしたりしました。

また、横山忠三郎や岡田只次が通ると、悪口をいったり、その子どもの通学のじやまなどをしました。

「岡田ぎつねにだまされて、水はこんこん、人はわいわい」といったうたができたほどでした。

そのころの人々のくらしは、せまい土地で農業をしているだけで、しゅう入が少なく、お金を出すことは、たいへんなことでした。

また、そくりようや工事のやり方の進んでいない時代でしたから、お金を出したり、田や畑をつぶして用水を作っても、ほ

この時の農民や忠三郎の気持ちを考えてみましょう。

芥見八幡地をなおす		
	明治23年8月	現在
石	約900t <small>(45000回)</small>	8t車で120台
赤土	約47m ³ <small>(2350回)</small>	7台
松の木	41本	
竹	32本	
なわ	約8kg	
人数	約2000人	30人
日数	13日	2日

ない大仕事です。しっばいやまちがいもありました。その大きなしっばいが、明治二十三年におこりました。待ちに待った用水路ができあがったので、水を流しました。ところが、前夜からの雨のため、水をすってよわくなっていたつづみが、こわれてしまったのです。

ちょうど田植えの時でしたので、水が来るのを待っていた農民は、こまってしまいました。そこで、せきにん者の忠三郎が中心になって、みんなで力を合わせて、大いそぎでこわれたところをなおし、一か月あとに水を通しました。この時に使った材料や人数の記ろくがのこっています。今とくらべると大きなちがいです。

用水路は、明治二十三年に、できあがりました。

ところが、その年から、大水や大地しんが、つぎつぎにおこり、せつかくつくった水路が、こわれることがたび重なりました。それをなおすのに、年月がかかり、ようやく明治三十四年に、計画通りに水が流れました。工事をはじめてから、十四年もかかったわけです。

4 用水ができ

用水のかんせい式は、明治四十年に行われました。「その日は、すもう大会やけい馬があり、花火もたくさんうち上げられ、たくさ

さいがいのようすを、年表で調べてみましょう。



用水完成の記念ひ（芥見）

各務用水の水路とかんがい面積

工事の期間	昭和44年 ～50年
工事に使った お金	約 7億9000万円
おしん用水路の長さ	幹線水路 約7,760m
	西幹線水路 約6,700m
	東幹線水路 約2,720m
	合計 約17,180m
用水を使う 田の面積	約 790 ha



用水路の完成によって、人々のくらしはどうか、つていくか、まどめてみよう。

んの人が集まり、とてもにぎやかだった。」と、用水路の近くのおじいさんが、農民のよろこびようを、なつかしそうに話してくれました。

用水のゆたかな水は、新しく開かれた田もふくめて、四百四十ヘクタールの広さにゆきわたりました。

今も続く工事 その後取り入れ口をかえたり、つつみの水

もれを少なくしたりするなど、なんども、しゅうりの工事が行われました。なかでも、昭和四十四年から、五十年までに行われた、水路をコンクリートにする工事は、一番大がかりでした。

この工事で、より多くの水を流すことができるようになり、新しく百六十ヘクタールの田に、水がひけるようになりました。

55年版 <編集委員>

(50音順)

旭 健 鶴沼第二小学校教諭
 市橋 桂 明 那加第二小学校教諭
 加藤 博 通 輪羽西小学校教諭
 加藤 正 俊 鶴沼第一小学校教諭
 木村 康 男 市教育委員会指導主事
 栗城 恵 蘇原第一小学校教諭
 左高 英 夫 那加第三小学校教諭
 白木 征 雄 蘇原第二小学校教諭
 高木 憲 三 那加第三小学校校長
 立川 清 水 尾崎小学校教諭
 西垣 浩太郎 那加第三小学校教諭

<改定委員>

(学校順)

伊藤 正 史 那加第一小学校教諭
 奥村 正 彦 那加第三小学校教諭
 内木 真 一 那加第三小学校教諭
 渡辺 紀 夫 那加第三小学校教諭
 柘植 卓 伸 尾崎小学校教諭
 左高 英 夫 輪羽西小学校教諭
 大洞 龍 二 輪羽西小学校教諭
 白木 征 雄 鶴沼第二小学校教諭
 仲野 哲 鶴沼第二小学校教諭
 大森 朗 鶴沼第三小学校教諭
 浅野 邦 彦 蘇原第二小学校教諭
 大森 二 朗 蘇原第二小学校教諭
 立川 清 水 中央小学校教諭
 中山 雄 二 中央小学校教諭
 丸山 幸 太郎 市教育委員会指導主事
 堂前 忠 雄 市教育委員会指導主事

かかみがはら

昭和47年4月1日 初版発行
 昭和49年4月1日 改訂版発行
 昭和55年4月1日 改訂版発行
 昭和59年3月31日 改訂版発行
 (部分)

編集・発行者 各務原市教育長 水野定之
 印刷者 浅野印刷 代表 浅野五治
 発行所 各務原市那加桜町
 各務原市教育委員会

あとがき

本書は、小学校・中学校・社会科の学習資料として、地域学習のために作られたものである。小学校・中学校・社会科の学習の対象は、各務原市や岐阜県など、私たちの生活の舞台になっている地域である。この地域の人々の生活と自然の結びつき、生産や消費の経済活動の特色、永い間この土地に生きてきた人々の歴史、政治や文化の初歩的な事などがらを正しく把握し、その社会的意味に気づかせひいては地域社会に貢献しようとする態度の育成をねらいとしている。

このねらいを達成するためには、教科書という全国版の教材のみでは、各市・本県の実態にそうの十分ではない。したがって市全体の傾向や典型的な事例を把握し、各学校の位置的条件を生かし、児童の学習意欲を喚起し、着実な学習展開をするためにこの種の本がどうしても必要であった。

このことに早くから着目されて、作成委員をお願いし、そのお骨折りによって昭和四十七年に初版が刊行されて以来、昭和五十五年に改訂版を刊行され、今回は二回目の改訂版が刊行されることになったのである。

当市の急激な膨張発展ぶりは、市政施行当時と比べると二十年の間に人口二倍以上、今や、十二万二千という勢いである。その間、人々の生活も経済流通活動も、大きく変化し進展してきている。

そんな事情の中で、委員の先生方の献身的な努力によりこの本を刊行することができた。現地調査資料収集、原稿執筆など、校務のいとまをぬっての仕事であった。ご労苦に感謝したい。不十分な点があれば今後、現場での教育実践によって検討を加え、将来さらによいものに育ててくださることを願っている。

終りに、いろいろな取材に応じ資料を快く提供して下さった諸官公署、諸機関、団体ならびに係各位に対し、厚くお礼申し上げる次第である。

昭和五十九年三月

各務原市教育長

水野定之

各務原市図書館



110002342

